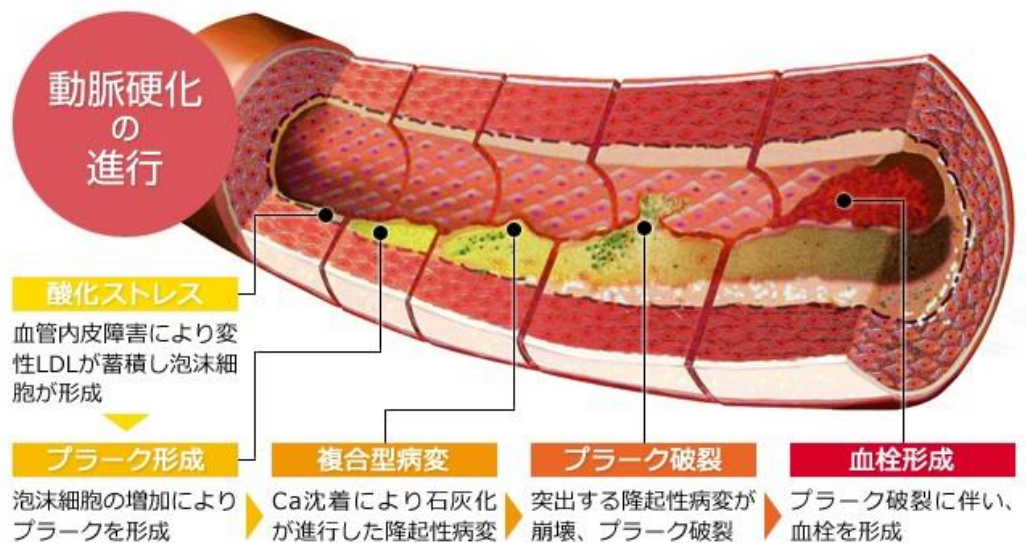


# 脳梗塞・心筋梗塞が心配な方に

## このような方にお勧めです

- **血縁家族に脳梗塞・心筋梗塞にかかった人がいらっしゃる方**
- **高血圧、脂質異常症、糖尿病にかかっており、動脈硬化が気になる方**
- **40歳以上の働き盛りの方**

動脈硬化の進行から  
将来の脳梗塞、  
心筋梗塞の発症までを  
予測できる  
新しい血液検査です。



## ロックスインデックス(LOX-index)とは

動脈硬化は自覚症状がないままに進行し、ある日突然脳梗塞・心筋梗塞といった疾病を発症してしまいます。ロックスインデックスは、動脈硬化の引き金となっている酸化変性LDL・sLOX-1という2つの物質の量を測定する検査です。ロックスインデックス検査では、脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを採血のみで予測できます。脳梗塞・心筋梗塞のリスクがあれば早めの予防対策を取りリスクを減らしていくことができます。

- 採血だけの簡単な検査
- 健診・人間ドックのオプション検査として受診可能
- 検査価格：16,200円(税込)

# 結果報告書 (サンプル)

発症リスクのレベルを  
分かりやすくグラフで記載。

生活習慣改善のための  
アドバイス別冊子つき

LOX-index®・総悪玉・心筋梗塞発症リスク検査報告書

★氏名 demo様 ★受診日 2014/12/24  
★カルテID 000001 ★性別 男性 ★年齢 45

総合評価グラフ

脳梗塞・心筋梗塞発症リスクは **中** です。

1800  
1500  
1200  
900  
600  
300  
0

LAB (μg cs/mL) 0.0 2.0 4.0 6.0 8.0 10.0

高リスク  
中高リスク  
中リスク  
低リスク

★ 今回の結果  
★ 前回の結果  
★ 前々回の結果

動脈硬化の初期段階は、総悪玉コレステロール(LAB)と悪玉コレステロールの担い手であるLOX-1が結合することによって起こると考えられています。そのためLOX-index®は、LABとLOX-1を測定・検出することで、動脈硬化の初期段階を捉えることができます。また日本国内で行われた基礎研究の結果、LOX-index®が高いほど将来の脳梗塞発症率は約3倍、心筋梗塞発症率は約2倍とすることがわかっています。LOX-index®は脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価できる、唯一の検査です。

総合評価コメント

総悪玉コレステロール(LAB)、総悪玉コレステロールの担い手LOX-1がともに少し高めの結果で、血管障害リスク(血管が傷む危険性)が進行しやすい方向に傾いていると考えられます。高血圧、高血糖、肥満、喫煙など他の動脈硬化リスクを持っている人は、治療や生活習慣の改善によってリスクを抑える必要があります。

LOX-1は炎症を上昇しますので、体内に炎症の兆候がある可能性があります。また、LABは体内で活性酸素が生成することで、悪玉コレステロール(LDLコレステロール)が7倍つき生成されます。これらは食生活、運動習慣によって改善できますので、生活習慣を見直しましょう。状態把握のためにも、一年後の再受診をおすすめします。

個別時系列データ

SLOX-1

1800  
1500  
1200  
900  
600  
300  
0

2014/12/24 2014/4/1 2013/1/1

評価 中 中 中

評価基準値 250 < 中 < 1400 < 高

LAB

10.0  
8.0  
6.0  
4.0  
2.0  
0.0

2014/12/24 2014/4/1 2013/1/1

評価 中 中 中

評価基準値 3.3 < 中 < 19 < 高

LOX-index

10000  
8000  
6000  
4000  
2000  
0

2014/12/24 2014/4/1 2013/1/1

評価 中 中 中

評価基準値 1000 < 中 < 7100 < 高

解説

総悪玉コレステロールの担い手LOX-1は、血液中から異物を取り除く働きをしています。血管に障害が起こるとLOX-1の生成が促進されるため、LOX-1は血管炎症の指標として利用されています。

今回の結果は、前回と同様にLOX-1の値が少し高い状態です。LOX-1は血中から異物を取り除く働きをしているため、酸化LDLなどに代表される動脈硬化の原因物質が多く、血管の炎症が起きていると考えられます。

この状態を改善するには、ストレスを避ける必要があります。ストレスのほかに、酸化ストレスにも注意して下さい。食を中心とした生活習慣の改善をお願いします。

解説

総悪玉コレステロール(LAB)は、悪玉コレステロールであるLDLコレステロールが酸化し、サビ付いた状態を示します。LDLコレステロールの一部は活性酸素等の影響によりサビつきます。このサビ付いたLDLコレステロールは動脈硬化を引き起こす原因となります。

今回の結果は、前回より改善が見られますが、LABの値がまだ少し高い状態です。

要する改善を目指すために、生活習慣を見直しみましょう。また今後、喫煙などによりリスクが上がる可能性が高いため、生活習慣の改善などでLOX-1とLABを下げる必要があります。

よりよい生活習慣とストレス解消を心がけて、リスクの軽減に努めましょう。

動脈硬化とは?

動脈硬化のメカニズム

1. 血管の壁にコレステロールが蓄積し、血管が狭くなる。2. 血管の壁が厚くなる。3. 血管の弾力性が低下する。4. 血管が脆くなる。5. 血管が破裂する。6. 脳梗塞や心筋梗塞を引き起こす。

解説

動脈硬化は、血管の壁にコレステロールが蓄積し、血管が狭くなることで起こります。血管の壁が厚くなることで、血管の弾力性が低下し、血管が脆くなります。血管が脆くなることで、血管が破裂し、脳梗塞や心筋梗塞を引き起こす可能性があります。

1. 人間は歳とともに心臓が弱くなる。2. 心臓が弱くなることで、血液の流れが悪くなる。3. 血液の流れが悪くなることで、血管の壁にコレステロールが蓄積する。4. コレステロールが蓄積することで、血管が狭くなる。5. 血管が狭くなることで、脳や心臓に十分な血液が送られなくなる。6. 脳や心臓に十分な血液が送られなくなることで、脳梗塞や心筋梗塞を引き起こす。

LOX-1を改善するために

LOX-1の値が高い方は血管の炎症が進んでいる可能性があります。

高血圧や糖尿病などの病状によって、LOX-1の値が高くなる場合があります。これらの病状を改善することで、LOX-1の値を下げることができます。

高血圧や糖尿病などの病状を改善するには、医師の指導のもとで薬を服用することがあります。また、医師の指導のもとで食事療法や運動療法を行うことも有効です。

生活習慣の改善によって、LOX-1の値を下げることができます。生活習慣の改善には、食生活の改善や運動習慣の確立が重要です。

食生活の改善には、野菜や果物を多く摂り、肉類や油類を控えめにすることが有効です。また、塩分や糖分の摂取を控えることも重要です。

運動習慣の確立には、毎日30分以上の有酸素運動を行うことが有効です。また、ウォーキングやジョギングなどの簡単な運動でも効果があります。

LABを改善するために

LABの値が高い方は、体内の酸化ストレスが高い状態にあります。

酸化ストレスは、体内で活性酸素が生成することで起こります。活性酸素は、細胞を傷つけ、酸化ストレスを引き起こします。

酸化ストレスを軽減するには、抗酸化物質を摂ることが有効です。抗酸化物質は、野菜や果物などに多く含まれています。

また、ストレスを軽減することも酸化ストレスを軽減するのに役立ちます。ストレスを軽減するには、十分な睡眠やリラックスする時間を持つことが有効です。

検査結果に対する総合的な  
コメントや改善の方向性を提案。

過去の検査結果からの  
推移も一覧できる解説付き。

## よくあるご質問

Q. ロックスインデックスでは何を調べているの？

血液中の酸化した“超悪玉コレステロールLAB”と、それを血管の壁に取り込んで動脈硬化を進ませるタンパク質“LOX-1”の量を測定しています。検査によって得た測定データを“過去の臨床データ”と照らし合わせることで将来の脳梗塞や心筋梗塞の発症リスクを調べています。

Q. 通常の健康診断では問題がなかったが・・・

健康診断は病気になっていないかを早期に発見するものです。ロックスインデックスでは病気になる前の段階から、将来の脳梗塞や心筋梗塞の発症リスクを調べることができます。

Q. 検査に食事制限などはありますか？

制限はありません。食前や食後に影響なく受診頂けます。

Q. ロックスインデックスではどのくらい採血されるのですか？

約2~4ml程度です。通常の間人ドック・健康診断に併せてご受診頂くことが可能です。

ご予約に関するお問い合わせ

医療法人豊仁会 三井病院  
三井総合健診センター

☎049-222-7217